

国際ロータリー第 2800 地区

クラブ・リーダーシップ・ラーニングセミナー（CLLS）

セミナー報告書

日 時	2026 年 4 月 11 日（土）10:00～17:00
場 所	山形ビッグウイング
司 会	和田宏司（次期地区幹事）

1. セミナーの概要と名称変更について

本年度より「地区協議会」から「クラブ・リーダーシップ・ラーニングセミナー（CLLS）」へ名称が変更されました。

■ ラーニングセミナーとは？

従来の「偉い講師の話聞く形式」から、参加者が能動的に学ぶ形式へと転換しています。

- 事前に「マイロータリー」のラーニングセンターで自習し、各自が知識を持ち寄る
- ファシリテーターは「先導役」のみ。参加者が自ら手を挙げて発表・議論する
- 今回は初回のため事前学習者は少なかったが、今後は必須となる

2. ロータリーの現状と課題

■ 会員数の減少

国際ロータリー全体で会員減少が続いており、第 2800 地区も例外ではありません。

地域	ピーク時	現在
米 国	42 万人（1990 年代）	26 万人
日 本	12 万人	8 万人
第 2800 地区	2,500 人	1,467 人（現在）

3. 伊藤修二ガバナーエレクト 基本方針

テーマ：「地域の絆で、明日につなげる」

■ 4つの優先事項（アクションプラン）

すべての委員会・事業に共通する「新しい四つのテスト」として位置づけられています。

4つの優先事項	
① 大きなインパクト	単発で終わらず、持続可能な良い影響を生み出す事業を目指す
② 参加者の基盤を広げる	若い世代も含め、多くの人を巻き込む工夫をする
③ 積極的な関わりを促す	参加して「よかった」と感じられる体験・満足度を提供する
④ 適応力を高める	地域・メンバーのニーズに耳を傾け、柔軟に対応する

4. 重点プロジェクト「川の絆から道の広がりへ」

私たち国際ロータリー第 2800 地区は、これまで川をテーマに地域社会との深いつながりと絆を築いてまいりました。水が流れ、命を育む川のように、我々の奉仕もまた地域に根ざした活動として脈々と受け継がれてきました。そしてその絆を礎に、新たな舞台「道」へと活動の輪を面として広げていくのが本プロジェクトです。単なる地域奉仕にとどまらない、過去と未来をつなぐロマンに満ち溢れた挑戦です。

■ プロジェクトの目的

本プロジェクトは、ロータリーの公共イメージ向上と、地域密着型の社会奉仕事業を高い次元で両立させることを目的としています。6 グループ 47 クラブの叡智とネットワークを結集した「RID2800 古道街道峠ネットワークプロジェクト」として推進します。

■ 2つの参加アプローチ

大規模なプロジェクトを成功に導くため、各クラブの状況に合わせて 2つのアプローチから参加を選択できます。

参加アプローチ	
面での展開（複数クラブ連携）	六十里越え街道・二口峠・潮の道・奥の細道など広域にまたがる古道街道を対象に、グループ内の複数クラブが合同で担当区間を分割して連携。目的は広域ネットワークの構築とグループの結束。
点での展開（クラブ単独）	クラブ地元にある象徴的な峠道や地域密着の歴史的な道について、クラブ単独での独自整備活動を行う。目的は地域社会との深い結びつきと独立したアクション。

■ 具体的な活動内容

道を整えることは、地域の歴史を敬い、次世代が安全に歩める未来を作ることでもあります。ロータリー活動がコミュニティ全体の結びつきをより確かなものにします。

クリーンアップ作戦

- 雑草刈り・ゴミ拾い・倒木の撤去等を行い、誰もが安全に歩ける道づくりを支援
- 活動時にはエンドポリオ・RID2800 ロゴ入りベストを着用し、ロータリーの存在を視覚的にアピール

案内看板・氷柱の設置と修繕

- この先〇〇峠といった案内や歴史的遺産の解説看板などの設置・修繕を支援
- 看板には「寄贈 国際ロータリー第 2800 地区 〇〇ロータリークラブ」と表記
- プロジェクト特設サイトへ導く QR コードを記載し、持続的な広報へとつなげる

■ デジタル発信——シネマトグラファーとして

プロジェクトの真の価値は、会員一人一人が「地区の歴史を記録する映画製作者（シネマトグラファー）」となり、活動の様子を映像に収めて世界へ発信することにあります。

- 共通ハッシュタグ「#RID2800」「#山形ヘリテージロード」を使用し、SNS を通じて随時発信
- 地域活動の魅力を発信することで、プロジェクトの機運を高める

動画撮影のルール

- 横向き 16:9 撮影——スマホを固定しての広角撮影を推奨
- 人にフォーカス——風景だけでなく、作業中の笑顔や地元の方との会話など人の動きを捉える
- ズーム操作や激しい手ブレは避ける（画質低下の原因となるため）

■ 地区推進体制

- 全体の進捗管理および動画素材の集約は、社会奉仕プロジェクト地域奉仕委員会が主体となり、各クラブの活動を強力にバックアップ
- 成果は 10 月 25 日の RID2800 ロータリーコンベンション 2026 においてプロモーション動画として披露
- 同時にプレスリリースを通じて各マスコミの取材を受ける予定

■ 活動スケジュール

スケジュール	
4～5 月	担当する道と活動内容の決定、ガイドライン配布（組織・計画段階）
7～8 月	整備活動の実施と動画撮影、SNS での進捗発信（実動・撮影段階）
9 月中旬	地区実行委員会への動画素材提出（データ集約段階） ※締め切り厳守
10 月上旬	プロモーション動画の制作・編集（大詰め段階）
10 月 25 日	コンベンションでの動画披露・YouTube 一般公開開始

道は未来へ続く——このプロジェクトは、第 2800 地区の新たなレガシーを作り出す挑戦です。皆様
が流す汗と固い友情、そこから生まれる笑顔の一つ一つが、RID2800 の歴史を彩る新たな一ページ

となります。

5. 各プロジェクト・委員会の活動方針

【活性化プロジェクト】 伊藤三之 次期地区ラーニングファシリテーター（パストガバナー）

社会奉仕プロジェクト担当の上林直樹パストガバナーが当日欠席のため、伊藤三之パストガバナーが活性化・社会奉仕の両プロジェクトを担当されました。

◆ ロータリーの価値観の歴史的流れ

「近年 RI が打ち出すビジョン声明やアクションプランが従来の目的・四つのテストとどう関係するのか分からない」という声が多いことに触れ、その連続性を丁寧に解説されました。

- 1905 年 ポール・ハリスらがロータリーを創設。親睦と奉仕が原点
- 2004 年 規定審議会でアクションプラン（行動計画）策定の動きが始まる
- 2007 年 中核的価値観（親睦・奉仕・リーダーシップ・多様性・高潔性）が承認。世界中の会員アンケート上位 5 項目から選定
- 2017 年 ロータリーのビジョン声明が制定される
- 2018 年以降 アクションプランと 4 つの優先事項が運用される

結論：「これらはバラバラに見えて、実はすべて同じことを言っている」。ロータリーの目的・四つのテスト・ビジョン声明・アクションプランの 4 優先事項はすべて同列に説明できる関係にあります。

◆ 【重要】国際ロータリー会長の言葉——ロータリーが自分自身を変える

今年度の RI 会長エレクト、オンラインカ・ハーキム・ババロラ氏（ナイジェリア出身）のメッセージから、伊藤三之パストガバナーが特に重要として紹介した言葉です。

ロータリーには共通点があります。それは、ロータリーが私たち自身を変えたということです。

奉仕を通じて、私たちはより良い人間へと形作られてきました。私たちのビジョン声明にある通り、変化は世界や地域社会だけでなく、まず自分自身の中から始まるのです。

——オンラインカ・ハーキム・ババロラ 国際ロータリー会長エレクト（ナイジェリア）

伊藤三之パストガバナーは、この言葉がロータリーの本質を見事に言い表していると強調されました。ロータリーはただのボランティア団体ではなく、奉仕を通じて「自分自身を高める」ことが最終的な目的です。片足を自分のプライベートに、もう片足を「世のため・人のために何ができるか」に置いて生きる——それがロータリアンの生き方であり、すべての活動はその人格形成のためのツールだという考え方です。

またビジョン声明「私たちは世界で、地域社会で、そして自分自身の中で持続的な変化を生み出すために…」という言葉の順番（世界→地域→自分）に対して、伊藤三之パストガバナーはかねてから違和感を感じていたと言います。本来は「自分が変わる→地域が変わる→世界が変わる」の順のはず。まさにアーライ会長エレクトの言葉がその違和感を解消してくれた、と紹介されました。

◆【重要】ロータリーの革新とは何か——耳を傾ける勇気と適応する謙虚さ

国際ロータリー事務総長 ジョン・ヒューコ氏の言葉として紹介されました。4つの優先事項の「④ 適応力を高める」の内実を最も的確に表現した言葉として位置づけられています。

ロータリーにおける革新とは、最新技術を追うことではありません。

それは、耳を傾ける勇気と、それに適応する謙虚さです。

——ジョン・ヒューコ 国際ロータリー事務総長

この言葉の意味するところ：

- 「耳を傾ける勇気」——地域・メンバー・相手が何に困り、何を必要としているかを、目を背けずにしっかり聞くこと
- 「適応する謙虚さ」——そのニーズを理解したうえで、自分たちのやり方を柔軟に変えていく姿勢。「うちのクラブはこうやってきた」という固定観念を手放すこと
- この姿勢があってこそ、持続可能なインパクト（良い影響）が生まれる。単発の思いつき事業ではなく、相手に寄り添い続ける継続的な活動へとつながる

◆ 四つのテストの位置づけ

四つのテストはもともと、シカゴのハーバート・テイラーが倒産寸前の会社再建のために作った経営指針でした。1950年代にテイラーがRI会長に就任した際ロータリーに提供し、「分かりやすく心に響く」と世界中で支持されて職業人の行動規範から人生の行動指針へと発展しました。

【岐阜ロータリークラブの説明（最もわかりやすい位置づけとして紹介）】

「自分がこれから言わんとすること・やろうとすることは、①真実か、②みんなに公平か、③好意と友情を深めるか、④みんなのためになるか——この四つを心の中で1回チェックすることが、奉仕を実践するための一番のコツ」

◆ 4つの優先事項＝「新しい四つのテスト」

行動計画の4つの優先事項を「組織づくり・事業展開における新しい四つのテスト」と位置づけました。すべての委員会・クラブに共通して使える基準です。

- ①大きなインパクト：「インパクト」とは衝撃ではなく『良い影響を継続的に生み続けること』。乳児死亡率が下がる「成果」の先に、救われた子どもたちが次世代を築くという「持続するインパクト」がある
- ②参加者の基盤を広げる：多くの人を巻き込む工夫をしているか。Eクラブの事例（オンライン例会・アンダー30会費優遇など）が会員増強の成功例として紹介された
- ③参加者の積極的な関わりを促す：参加者が「よかった」と感じる満足感を提供できているか。会員の退会原因の多くは「満足感の欠如」であり、退会防止・会員増強に直結する。また専門用語（DDF・IMなど）をわかりやすく説明する工夫も、新会員のストレス軽減に重要
- ④適応力を高める：上記ジョン・ヒューコ事務総長の言葉がまさにこの内実。耳を傾ける勇気と適応する謙虚さをもって地域・メンバーのニーズに応えることが、すべての事業展開の基本

◆ クラブ奉仕の意味

・ ラブ奉仕については「クラブの中で奉仕の心を学ぶ場」と整理されました。

- 深川純一氏の言葉：「内なる奉仕がクラブ奉仕であり、それを外で実践するのが社会・職業・国際・青少年奉仕」

- 執行部（会長・幹事）には「全会員が満足できるクラブ運営をする義務」があり、会員には「それに協力する義務」がある。権利と義務の両面で成り立つ
- 充実した組織運営かどうかをチェックする基準が「4つの優先事項」

◆ 職業奉仕について

「職業奉仕は難しくてイメージしづらい」という声に対し、昨年度の取り組みを紹介されました。

- 「それぞれの職業奉仕物語」を各クラブに依頼し、123通+ローターアクトから6通の作文が集まった
- 作文を読んで「一番腑に落ちるもの」を選んで発表するワークショップを100名以上で開催
- 職業奉仕の意味は①職業倫理、②職業スキルを活かした社会奉仕、③職業を通じた人格形成——どれも正解。エピソードと言葉を組み合わせることで具体的に理解できる
- 地区公式ホームページに全作文・資料を掲載中。ぜひ参照を

【次世代プロジェクト】 佐藤孝子 次期地区ラーニングファシリテーター（パストガバナー・鶴岡ロータリークラブ）

今年度から組織図が変わり、従来の「青少年奉仕プロジェクト」に米山学友委員会が加わって5委員会体制となりました。

◆ 担当5委員会と共通テーマ

- ローターアクト委員会
- インターアクト委員会
- ライラ委員会
- 青少年交換委員会
- 米山学友委員会（今年度より新たに加わった）

これら5つの委員会に共通するのは「次世代を担う若い人たちの育成・支援」というテーマです。2800地区はこれまでも青少年奉仕活動が非常に活発であり、引き続き各委員会が力を入れて取り組んでいます。

◆ 各クラブの関与状況の「見える化」と情報共有の重要性

佐藤孝子パストガバナーが特に強調したのは「情報が届かなければ関心も生まれない」という点です。

- 資料79ページに、第1グループ～第6グループの各クラブが、どの委員会（ローターアクト・インターアクト・青少年交換・米山学友など）に関与しているかを一覧化した表を掲載
- この一覧を見ると「自分のクラブにはインターアクトがない」「青少年交換をしていない」「米山の世話クラブになっていない」など、関与していない委員会が一目でわかる
- 関与していないクラブは、活動内容がわからないため関心を持ちにくい。だからこそガバナー補佐がグループ内の全クラブへ積極的に情報を届ける役割を担うことが非常に重要

◆ 関心を広げ、参加クラブを増やすために

「情報を知ることによって興味が生まれ、活動に参加するきっかけになる」という考えのもと、以下のような働きかけを期待されています。

- インターアクト・ローターアクトのないクラブは、ぜひ自分の地域で設立を検討してほしい
- 青少年交換をまだ行っていないクラブも、次年度から取り組みを始めることを検討してほしい

- 米山学友の世話クラブになっていないクラブは、近隣に米山奨学生がいれば世話クラブとして関わることを検討してほしい
- 各委員長が充実した活動計画を準備しており、その内容は資料（各ページ）に掲載。ガバナー補佐を通じて全クラブへの情報共有をお願いしたい

◆ 2800 地区への期待

2800 地区の次世代・青少年活動はこれまでも全国的に高い評価を受けています。名称は変わりますが、「青少年奉仕委員会＋米山学友委員会」として引き続き若い世代の活動を全クラブで応援していただけるよう、お願いしたいと述べられました。

【ロータリー財団】 大久保章宏 次期地区ラーニングファシリテーター（パストガバナー・山形南クラブ）

ガバナーエレクトの基本方針動画に登場した「井戸を掘る・緑化・医療支援」などの映像はすべてロータリー財団の資金によるものです。「世界で良いことをしよう」を合言葉に、会員の寄付を世界中の奉仕活動へ届けるのがロータリー財団の役割であることを改めて説明されました。

◆ 寄付の現状と目標

- 2800 地区の 1 人当たり年間寄付額の現状：平均 110 ドル（34 地区中、下位グループに位置する）
- 長年の地区目標は 150 ドルだったが、150 ドルを達成しているのは上位 8 クラブのみ
- 全国平均はかつて 150 ドルだったが近年さらに上昇している。まずは 150 ドル達成を目指してほしい
- 今年度の地区補助金配分の基準を変更：1 人当たり 100 ドルを境界線として上下に分けて審査・配分する方式へ（小松ガバナーと協議のうえ決定）

◆ グローバル補助金の積極活用を

2800 地区のほぼすべてのクラブが地区補助金（国内事業向け）しか活用していないのが現状です。大久保章宏パストガバナーは「集めたお金以上に使えるのがグローバル補助金の仕組み」として、その積極活用を強く呼びかけました。

- 他地区では DDF（地区財団資金）が足りないほどグローバル補助金を活用しているが、2800 地区は DDF が毎年余っている。これは活用できていない証拠
- グローバル補助金活用の最もわかりやすい方法は米山奨学生を活用した海外クラブとの連携。山形大学のホームページにはすでにロータリー奨学金情報が掲載されているが、まだ候補者が出ていない
- 「英語で手続きが必要で面倒」という声があるが、AI を使えば翻訳は容易。日本事務局も合格させるためのサポートを積極的に行っている
- 姉妹クラブ・提携クラブで海外とつながりのあるクラブは、ぜひグローバル補助金の活用を検討してほしい

◆ 委員会の 3 つへの再編

伊藤年度から財団委員会の組織を以下の 3 つに再編しました。

- ①ロータリー財団補助金委員会（委員長：遠藤真一）——地区補助金・グローバル補助金すべての説明・管理・推進を担当
- ②ロータリー財団資金推進委員会（委員長：安孫子俊彦）——財団への寄付推進活動を担当

- ③ポリオプラス・平和センター・財団学友委員会（委員長：菊地賀治）——新設。全国 34 地区でこの委員会がないのは 2800 地区だけだったため新設

◆ ロータリーカードの利用促進

ロータリーカード（ダイナースクラブカード）の利用を全クラブに強く勧めました。

- 現在 2800 地区での登録クラブはわずか 4 クラブ。小松ガバナーが年間 30 ドルの寄付をお願いしているにもかかわらず、ロータリーカードすら使われていないクラブが多い
- カードを使って支払うと、使用金額の一定割合がロータリー財団へ自動的に寄付される。カードを使う側の負担はない（カード会社が支払う仕組み）
- 会場費・例会費など、クラブの日常的な支出をロータリーカードで支払うだけで寄付になる。送金手数料の節約にもなる
- 次年度の会長エレクト・ノミネー段階からカードを申し込めるため、ぜひ早めに対応してほしい。限度額なし（年度末に解約）
- 資料には「寄付の認証についての手引き（2025-26 年度版）」を各クラブ 1 部ずつ印刷して配布。ポールハリス・アーチクラフトなど認証制度の詳細が記載

6. 分科会 各委員会報告

■ 活性化プロジェクト

委員会	委員長	主な活動方針
クラブ方針	高嶋俊幸	例会充実・4 優先事項への当てはめ・各クラブの状況調査実施
ロータリー情報	平山順一	マイロータリー・地区公式 LINE 登録推進、戦略計画サポート
会員増強	近藤英雄	衛星クラブ設立推進・純増 2 名/クラブ・地区全体 100 名増が目標
公共イメージ	伊勢博	AI 活用・SNS 情報発信強化・優良事例の地区 HP への公開

■ 社会奉仕プロジェクト

委員会	委員長	主な活動方針
職業奉仕	佐藤昌則	職業奉仕の意義を伝える映像制作を計画
地域奉仕	遠藤正明	「道プロジェクト」の進捗管理・動画収録を担当
国際奉仕	富樫松夫	健康・教育・環境・平和支援。12 ヶ月中 8 ヶ月が国際奉仕月間

■ 次世代プロジェクト

委員会	委員長	主な活動方針
ローターアクト	本間安信	「拡大より整備」方針。ロータリーとの連携強化・地区共通事業の創設
インターアクト	平田進	8 クラブ支援・酒田地区への新設推進・年次大会（6/5・戸

		沢村)
青少年交換	大滝正博	派遣 3〜4 名目標（米・伊・スイス）、5 月末〜6 月募集開始
米山学友	田中隆一	次世代 PJ に新統合・会員 1 人 1 万 5 千円寄付呼びかけ

■ ロータリー財団委員会

委員会	委員長	主な活動方針
財団資金推進	安孫子俊彦	1 人 150 ドル目標・成功事例の紹介・卓話等によるセミナー開催
ポリオプラス	菊地賀治	10/24 世界ポリオデーに合わせた募金・広報活動、ロータリーカード普及

7. 注目トピック：衛星クラブとは？

会員増強の新たな手段として、衛星クラブの設立が推進されています。

衛星クラブの特徴	
設立のしやすさ	会員 8 名以上で設立可能
柔軟性	既存クラブとは異なる時間・場所での例会開催が可能
費用面	クラブ・地区が設定する回費を低く抑えられる（山形 RC 例：3 万円以下）
設立手順	①設立決定 → ②会員 8 名集める → ③設立申請書を事務局へ提出 → ④チャーターナイト（設立記念式典）開催

8. 地区大会（コンベンション）のご案内

実行委員長：長谷川憲治

地区大会の概要	
日 時	2026 年 10 月 25 日（土）
開催趣旨	会員減少・公共イメージ低下という課題を打破するためのきっかけとなる大会
特 徴①	セレモニー・決議等は極力廃止・簡略化。RI 会長代理の招聘なし
特 徴②	ヤマト協によるエンドポリオナルコンサートを開催。一般県民にも参加を呼びかけ
特 徴③	懇親会は「短時間・高密度」で全員が最後まで楽しめる内容に
目 標	①ロータリアンが「入ってよかった」と感じる大会 ②地域の方が「ロータリーは素晴らしい」と思えるきっかけとなる大会

9. 分科会での採択・決議事項

ガバナー補佐・会長エレクト・会長ノミニー分科会にて以下が承認されました。

- 2026-27 年度 決議事項（案）→ 可決
- 2026-27 年度 申し合わせ事項（案）→ 可決
- 地区資金予算（案）→ 可決
- 地区大会予算（案）→ 可決
- ガバナーエレクト地区資金予算（案）→ 可決

※ガバナー賞について：今年度より数値目標を廃止し、各クラブの実情を重視した選考へ変更。

10. 総括 芳賀康雄 直前ガバナー

- ロータリーは 120 年を超え、時代に合わせた変革が求められている
- アクションプランの 4 つの優先事項を軸に、クラブ運営を見直してほしい
- 地区委員会を積極的に活用し、クラブ活性化に役立ててほしい
- 会長を中心に、「学び続ける姿勢」を大切にしてほしい

本日のキーメッセージ 「地域の絆で、明日につなげる」 — 伊藤修二ガバナーエレクト

ご不明な点は地区事務局または各委員長までお問い合わせください。